



発行：NPO 法人岡崎がくどうの会

【TEL&FAX】0564-32-0325

【E-Mail】okazakigakudou@yahoo.co.jp

【西村 巧さん（つくしクラブ 常勤専任指導員）】

分科会⑫ （コロナ禍におけるこどもたちの心とからだ）

今回の「あいち学童保育研究集会」も昨年同様、コロナ禍の為オンライン（Zoom）にての開催となった。まず、この分科会を選んだ理由としては未曾有の感染症における事案はこれまでにない特別なテーマだったこと、それにより子どもたちはどのように変化しているのか、を講義として専門の先生から聞いたかったということ。

当初、ワークはないとの事だったので、デスクトップ PC（カメラ・マイク無し）で参加したのだが、いざ講義が始まってみると半分はワークという流れだったのでそこにほぼ参加出来ず傾聴のみとなってしまった。

グループでのワークでは「コロナの影響で生活はどのように変わったか」、「コロナの影響で学童保育所はどのように変わったか」を意見交換し、それについてのまとめなどを講師がするような形だった。

実はこのテーマは以前 NPO 法人岡崎がくどうの会の「ONE テーマ会」でも扱っており、実は学童保育所に限らずどこの世界の人でも思う事は似ているんだなあ、という印象を受けた。

そして、意見を聞いていく中でこの息苦しさの源というのは精神的には「自由を規制されること」、また物理的には「マスクを常につけておかなければならない事」だということは何の人も一緒だった。

またこういった立場でなかなか言い辛かったとは思いますが、やはりよっぽど溜まっていたのか、仲間意識がそうさせたのか、「マスクなんかつけたくない」「出歩くこともある」という意見も「ごもっとも」、と思った。

そんな中、学童保育所に通う子どもたちを思う時、僕たち指導員は規制せざるを得ない、そしてそれを強制しなくてはならない空間に果たして自分の居場所を見いださせてあげる事が出来るのか、という課題をプラスで背負わなくてはならなくなった。

規制があるなかでの保育は僕ら指導員の脳をいつも以上にフル回転させ、いつも以上に神経を使い、それでも感染する目に見えない魑魅魍魎に振り回され・・・その繰り返しを2年間・・・

そろそろの収束の頃合いにまた一つとんでもない経験値があがったことは言うまでもない。

知識として認識しながらも現場の疲弊は今後もしばらく続きそうなこのご時世に講師は「頑張ってください」と分科会を締めた。

【立川諒さん（なかよしクラブ 非常勤指導員）】

分科会④ （集団からはみ出してしまう子の保育、問題行動について）

集団に入ることが大切ではあると知りつつ動けない子もいます。しかし、無理に居ることによってストレスになることもあります。コロナでストレス、そして個性、指導員とのかかわりで解決策を模索し続けることが大切だと知りました。指導員、自粛、コロナ感染などストレスの元が増えているため、ストレス自体を助長する行動は控えるべきだと思います。

「困る子は困っている子」という言葉から、いつも注意している子なのか、たまたま虫の居所が悪いのか、家族や友人のことで困っているのか。何でその子どもが満たされていないのかを汲み取ることがとても大切だと思います。そして、満たされていない子ども同士がストレスを与え合うため、どの子どもが何でストレスを浴びているのかを考える必要があると感じました。また、指導員と子どもとの間の信頼にも関係していると知りました。

学年ごとでも能力は違うこと、同学年でも能力には個人差があることは大前提として知っているべき事案であり、他人と比べ続けることはその子自身を困っている子にしてしまいかねないと知りました。

今回の講義から、子どもの個性としての把握、指導員との信頼・役割形成、寄り添い向き合う際に意図的な導入が大切だと学びました。

**【河内きよみさん（あそびばクラブ 保護者）】**

分科会⑥ （子どもの発達ってなんだろう？）

分科会に参加して、こどもの発達段階によって心の変化が様々あること、自分と他者の見え方が変わっていくことを知ることができました。

自分の子どもの姿と重ねながら、話をきくうちに、発達、成長の中の過程であることを知っていれば、子どもにとってよい対応ができるなと思いました。

自己肯定感を育むことの大切さを話され、結果だけでなく、過程を重視することをわすれないようにしたいと思いました。兄弟の中では学べない様々なことも学童ですごす上で子ども同士で学んでいることもわかり、親としての姿勢も教えられて貴重な機会となりました。ありがとうございました。

**【假屋園直子さん（風の子クラブ 保護者）】**

分科会① （入門講座「学童保育とは」）

まず、分科会を選ぶのに悩みました。まずは“学童とは”を知ることが基本かなと思い、この分科会を選びました。定義が様々で、わかりづらい部分もありましたが、どのような児童が対象なのかを知ることができました。

子どもの姿、家族(家庭)の事情も様々。でもどんな事情であれ、対象となる子が少しでも平等に利用できるようになっていけるといいなと思いました。

ありがとうございました。

**【松保恵美さん（あそびばクラブ 非常勤指導員）】**

分科会⑮ （服から学ぶ！？子どもの才能と育て方～服育～）

服育…正解がない世界。個性を出すも、出さないも服装から信念が見える。子どもの本音が、服から理解できることは改めて聞くと、子どもたちの顔が浮かび、納得する部分も多くありました。「5つの創痕 服の着方」では、どれもあてはまることがわかり“無意識の支配”に気づかされました。子ども=自分…受け入れ学べる環境に感謝しています。

**【常澤愛美さん（つくしクラブ 保護者）】**

分科会⑨ （小学生の SNS との付き合い方）

「少し早いだろうか」と迷いながらも、ここ最近子どもにスマートフォンを持たせるようになり、制限の範囲や時間の約束など、その管理の難しさに悩まされていました。今回こちらのテーマを選択させていただいたのは、まさにそんな今に最も身近なテーマだと感じたからです。

YouTube や Tik Tok、LINE にソーシャルゲーム、考え出せばきりが無いほど不安なことの出てくるテーマですが、お話を聞いた中で最も印象に残ったことは、「ネットの使い方は特別なものではなく、日常の中で起こる他の問題と変わりない」ということでした。

他の問題と向き合うときと同じように、リスクについて学ぶことや約束事などを決めて生活を自主管理すること、他者とのコミュニケーションの取り方を大切にすることなど、子どもとの対話を繰り返す中で一緒に考えていくものだ気づかされました。

ニュースなどで見聞きした断片的な情報で SNS の怖さを理解したつもりになっていましたが、立ち止まって考えてみれば自分自身も知らないことばかり。

そのために「危ないからダメ」と子どもに一言で制限してしまっていた場面が多々ありました。これからはなぜそれが危険なことなのか、どのように関われば楽しく安全に使用することが出来るのか、子どもと一緒に学びながら考えていこうと思います。

めまぐるしく変化していく時代の中で、子どもたちの SNS との付き合い方に関する問題も益々多様化していくことが予測されます。

その中で子どもたちが安全にネット社会と関わり合っていくように、私たち保護者ができることは日々の暮らしの中で子どもと向き合い、目の前にある問題の一つ一つについて丁寧に話し合いながら解決方法を探っていくこと。

溢れる情報の中から、正しい情報を自ら選び抜ける思考力を身に着けさせてあげられるように、対話を大切にしながら子どもと共に学んでいきたいと思いました。